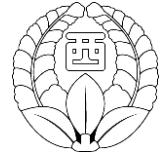


西藤島小だより



☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』

☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」

福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809

<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp

平成29年6月8日発行

No2

福井市西藤島小学校

1年生です！よろしくおねがいします！～1年生を迎える会～

4月28日（金）に「1年生を迎える会」を行いました。入学してから3週間が経ち、まだまだ保育園や幼稚園の頃のあどけなさを残しながらも、少しずつ小学生らしくなっていく姿が、見ていて本当に微笑ましいです。

当日は全校児童の前で、一人一人が堂々とマイクを持って自分のクラスと名前を言うことができました。また、6年生が計画したクイズやゲームなどで思いっきり楽しみました。

1年生というと、どうしても「手をかしてあげなければいけない」「助けてあげなくてはいけない」という存在に見てしまいがちです。でも、この子たちは、保育園や幼稚園では、今年の3月まで一番上のお兄さんやお姉さんとして、立派に頑張ってきた子たちです。今、保育園・幼稚園と小学校での連携が大切だとされています。保・幼で培ってきた力を引き継ぎながら、継続的にその力を伸ばしていくことが大切なのだと思います。「1年生だからできなくても仕方がない」では、せっかく培ってきた力をリセットしてしまうことになります。小学校入学までの育ちを大切に受け継ぎ、これから多いに、健全に、豊かに育てていきたいと思います。



全校児童の前で自己紹介

落ち着いて行動！～避難訓練～



学校では年に2回、避難訓練が義務づけられています。今年は、5月17日（水）に北校舎3階の家庭科室からの出火を想定した避難訓練を行いました。全員口にハンカチをあて、一言もしやべらず、落ち着いて避難することができました。

消防庁の統計によると、全国で昨年1年間、火災によって亡くなった方は約1600人いるそうです。その原因のほとんどが「窒息」によるもの、つまり煙を吸って呼吸ができなくなり死亡に至ったということです。煙は横への移動は遅いのですが、縦つまり上階への移動はかなり早いのです。もし1階のいずれかの部屋で火災が発生したら、そして、もし授業中ではなく教員がそばにいない休み時間に火災が発生したら、子どもたちへの避難誘導は格段に難しくなるものと思います。そのときにパニックにならないよう、「お（さない）、か（けない）、し（やべらない）、も（どらない）」を守って落ち着いて避難できるよう、自分たちの耳で放送や指示を聞き、頭で考えて行動できるようにしておかなければならぬと、改めて思いました。

思いっきり走った！ ～第53回 西藤島区民体育祭～

爽やかな青空のもとで、5月28日（日）に「第53回 西藤島区民体育祭」が行われました。今年はご来賓として、福井市教育委員会 内田教育長にもお越しいただき、盛大に開催されました。

5月には福井市全域でこの体育祭が行われますが、地区によっては「体育大会」というところもあれば、「体育祭」というところもあります。西藤島地区はやはり「体育祭」だと思います。

この地区は、九頭竜川、足羽川、日野川の合流地帯であり、過去度重なる洪水による大災害に見舞われてきた土地です。そんな中、地域の人々の治水に対する熱意が県や国を動かし、福井市出身の杉田定一衆議院議員などのご尽力もあり、明治33年

（1900年）から国が直轄で河川を改修することになりました。そして大水害にも負けない不屈の西藤島魂が受け継がれながら、現在の豊かな田園地帯を完成させました。西藤島地区の体育祭は、そうした災害を乗り越え、安心して稻作ができるようになったことへの感謝の気持ちを込めた「祭り」として今日までに至ったのだと思います。

地区の団結力の強さもうかがえた1日でした。



フリートークコーナー ～心という気球～



みなさん、熱気球ってご存じですか。ガスバーナーで下から熱風を送り気球を膨らませ、気球全体が上昇していくものです。熱風を送り続けているうちは、気球は膨み上昇するのですが、熱風を送るのをやめたとき、気球はしぼみ気球自体が落下していきます。

今、子どもたちの心がこの熱気球に似ているという話を聴きました。大人（親、教師、指導者など）は子どもに自信を持たせ、やる気にさせるために「褒める」

「認める」「出番を作る」「評価する」「成功体験を積ませる」という『熱風』を送ります。すると心の気球が膨らみ、一時的にやる気を起こさせたり自信につながったりするでしょう。しかし、これは要求に対してどれだけ成功したか？という優越感や、他者との比較で得られるものです。

これを「社会的自尊感情」というそうです。この『熱風』が送られ続ければいいのですが、仮に心の気球に熱風が送られなくなった場合、その瞬間に心の気球はしぼんで落ちていきます。そうなると子どもは自暴自棄になり、自分や他人を傷つけたり、他人をおとしめたりしようとなります。

一方で、例え心の気球がしぼんでも自暴自棄にならずに自分を保てる子がいます。それは、常日頃から「自分は自分でいい」「このままでいい」「生きていていい」と思える感情、つまり基本的な土台のできている子です。これを「基本的自尊感情」というそうです。小さいときから自分が信頼できる人（家族、友人など）と同じ体験をしたり、それから得る感情を共有したりする（一緒に何かをする、共に同じ方向を見て行動するなど）ことによって少しづつできてくるといわれています。今、教育界でもこの「基本的自尊感情」を育てることが注目されています。

人間は、心の気球が膨らんだり、しぼんだりしながら生きていくものです。それに一喜一憂することなく「ありのままの自分でいい」という土台の感情をしっかり育てていくことの大切さを学びました。



